

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4070501962
法人名	社会福祉法人 悦和会
事業所名	グループホーム こうえつ苑
所在地 (電話番号)	福岡県北九州市小倉南区沼緑町1-11-21 (電話)093-471-8215

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2-5-27		
訪問調査日	平成20年11月5日	評価確定日	平成20年11月26日

【情報提供票より】平成20年9月30日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 4 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤	5 人, 非常勤 12 人, 常勤換算 10、8

(2) 建物概要

建物形態	併設 <u>単独</u>	<u>新築</u> / 改築
建物構造	軽量鉄骨	造り
	3階建ての	2階 ~ 3階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	42,000 円	その他の経費(月額)	光熱水費 13,500 円	
敷金	有() 円	<u>無</u>		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 円	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1350	円	

(4) 利用者の概要(平成20年9月30日現在)

利用者人数	18 名	男性	7 名	女性	11 名
要介護1	3 名	要介護2	4 名		
要介護3	7 名	要介護4	3 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86.2 歳	最低	73 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	かん養生クリニック、渋江医院、くらとみ歯科クリニック、松井病院
---------	---------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

交通の良い住宅街の坂を登っていくと「グループホームこうえつ苑」がある。敷地内には母体法人の軽費老人ホームがあり、グラウンドや東屋が共有スペースとなっており、利用者の散歩コースや休憩場所として利用されている。建物は3階建てで、1階は駐車場、2階と3階部分が居住スペースとなっている。町内会と合同で納涼祭を行い、地域の方も参加し、利用者や職員と一緒に楽しんでもらっている。幼稚園児や中学生の訪問などを受け入れ、地域との交流が積極的に図られている。前回の外部評価の課題であった、地域密着型サービスとしての役割を理解し、理念に反映されるなど、日々の介護サービスの向上にむけて努力されている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善点は7項目あったが、管理者や職員の努力で4項目が改善されている。今後は「市町村との連携」「人権教育・啓発活動の活性化」「重度化や終末期の指針の作成」「入浴時間帯の検討」「地域住民の協力を得た避難訓練と備蓄の準備」などを努力していくことが望まれる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は職員全員で取り組み、作成されている。評価結果についても職員に報告し改善に向けて努力をしている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は3,4ヶ月に1回開催されている。自治会長、地域包括支援センター職員、家族、ホーム職員で構成され、ホームの現状や行事、外部評価の取り組み状況について報告し、参加者からは災害対策についての意見が出されるなど双方向的な会議となっている。今後は2ヶ月に1回の定期的な開催と積極的な参加の呼びかけ、地域住民の協力を得て、合同避難訓練の実施などが望まれる。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	苦情受付先をホーム内に掲示し、苦情箱を設置している。家族の面会時などに意見や要望を聞き運営に反映している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会と母体施設と合同で納涼祭を開き、地域住民も多数参加している。市民センターのふれあい祭りへの参加や作品を出展し、地域の幼稚園児や中学生の訪問など積極的に受け入れて地域との交流を図っている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「地域の方々とコミュニケーションを大切にし、地域社会の一員として信頼されるグループホームを目指します」従来の理念に加え、地域との関係性強化を謳った理念となっている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日の朝礼時に全員で理念を唱和し、確認しあうようにしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内、母体の施設と合同で納涼祭を行い、毎年地域の方々が多数参加されている。ホーム横に市民センターがあり、センターのふれあい祭りに参加したり、利用者の作品を出展している。また、地域の幼稚園児の訪問や中学生の吹奏楽演奏の訪問など地域と積極的に交流している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義を理解し、職員全員で自己評価を作成している。評価結果についても職員に報告し改善に向けて努力している。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は3、4ヶ月に1回、自治会長、地域包括支援センター職員や家族が参加し開催されている。ホームの行事や外部評価の結果などを報告している。参加者からは災害対策について意見が出されるなど双方向的な会議となっている。		運営推進会議への積極的な参加の呼びかけや、2ヶ月に1回の開催などが望まれる。
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議以外での連携はとれていない。		事業所の運営や現状などを積極的に伝える機会をつくり、問題解決にむけて協働関係を築いていくことが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
7	10	権利擁護に関する制度の理解活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	施設長が成年後見制度、地域権利擁護事業についての研修会に参加し、ホーム内で伝達講習を行い職員の理解を深めるようにしている。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、家族の面会時に、利用者の心身の状況や金銭報告をしている。定期的に「こうえつえん便り」を郵送し、行事の参加などを呼びかけている。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付先をホーム内に掲示し、苦情箱を設置しているが、あまり活用されていない。家族の面会時に職員側から積極的に声かけをし、意見や要望を聴いている。		
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	各ユニットの職員を固定化し、職員の異動を最小限に抑えるようにしている。新人職員が入る場合は、1ヶ月間指導係りの職員について業務を習得している。		
11	19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は職員の募集採用にあたっては性別や年齢などを理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きと勤務し社会参加や自己実現の権利が十分に保障	職員の採用については、性別、年齢に制限なく採用している。経験や本人のやる気を重視し、職員の年齢の幅も広く、生き生きと勤務している。		
12	20	人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員などに対する人権を尊重するために、職員などに対する人権教育、啓発活動にとりこんでいる	利用者の尊厳、人権を守ることは日頃から心がけているが、人権教育、啓発活動の取り組みとまでは至っていない。		人権教育の重要性を理解し、研修会への参加や内部での勉強会を通じて人権意識の向上に努めることが望まれる。
5. 人材の育成と支援					
13	21	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の習熟度に応じた研修に参加出来るように、勤務の調整や研修費用の補助を行い、介護サービスの質の向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
14	22	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福岡県高齢者グループホーム協会や北九州高齢者福祉事業協会に加入し、地域の同業者との親睦会や勉強会に参加し交流の機会をもち、サービスの向上に活かしている。		
・安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者や家族に体験入居や見学をしてもらい、職員や他の利用者との交流を図り、安心してサービスが利用できるように支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常生活の中で、買い物、洗濯干し、たたみ、台拭き、お盆拭き、裁縫など一緒に行う中で、利用者から教えてもらう場面も多く、共に支え合いながら過ごしている。		
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族や関係者から情報収集したり、日常のかかわりの中で本人の表情や状態などから汲み取り、意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族からの要望を聴き、職員全員でカンファレンスを行い介護計画を作成している。		
19	39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎にモニタリング、アセスメントを行い、計画の見直しをしている。また、状況に変化があった場合は、その都度計画の見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院は基本的には家族介助となっているが、本人や家族の状況、要望に応じて通院や外出の支援を行っている。また、訪問歯科や訪問マッサージのサービスが利用できるようになっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望を大切に、かかりつけ医での受診を支援している。また、月2回の協力医の往診や、週1回訪問看護にも来てもらっている。協力医とは24時間連絡体制がとれている。		
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者の状況に応じて、かかりつけ医と相談しながら支援している。		重度化や終末期のあり方について、事業所としての指針を作成し、関係者との方針の共有化を図ることが望まれる。
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は常に、利用一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねることのないような対応を心がけている。個人の記録等の管理にも注意を払っている。		
24	54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、一人ひとりのペースを大切に体調に配慮しながら、散歩や作品作りなど本人の希望にそって支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と共に台拭きや下膳、お盆拭きなどを行い、食事が楽しくできるように声をかけをし、笑い声や笑顔がみられた。また、おやつや果物の皮むきを利用者と一緒に行い、共につくる楽しさを感じてもらおうとしている。		利用者と職員が同じテーブルを囲み、一緒に食事を楽しむ環境づくりが望まれる。
26	59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日行っているが、基本的には利用者は半数ずつ隔日で入浴してもらっている。本人の希望や体調に応じて柔軟に支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食後の後片付けや洗濯物干し、たたみ、絵本の朗読など、本人の得意分野での役割を担ってもらい、張り合いのある生活を支援している。		
28	63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候や本人の体調、希望に応じて散歩やドライブ、買い物などに出かけている。定期的に外食や喫茶店などに行き、本人の好きな物を食してもらっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は居室や玄関の鍵はかけずに、職員が細かく見守りを行うことで自由な暮らしを支援している。		
30	73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、母体の施設と合同で避難訓練を行っている。また、毎年消防署の協力を経て訓練の他、救急時の対応方法などの指導も受けている。		地域住民の参加、協力が得られるように働きかけを行い、合同で避難訓練を行ったり、非常時に備えて飲料水や非常食などの備蓄が望まれる。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事量、水分摂取量を記録し栄養状態の把握をしている。利用者の状態にあわせて、食事の形態を工夫し提供している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	窓辺の廊下にソファを設置し、利用者がくつろげるように配慮している。3階は天井が吹き抜けになっており開放的なつくりになっている。フロアの飾りは、利用者が生けた季節の花や利用者と一緒につくられた作品が季節に応じて飾られている。		
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはベッドとタンスが備え付けられているが、利用者の使い慣れた家具や生活用品、仏壇など、利用者が居心地よく安心して過ごせるように配慮している。		